

韓国保険新聞・保険毎日新聞社・中国保険報
「学生アイデアコンテスト2019」開催

日中韓10チームがアイデア競い合う

大賞はDNA分析活用し健康支援する保険

韓国保険新聞、保険毎日新聞社、中国保険報の3社は9月6日、韓国・ソウルの大韓商工会議所で、「学生アイデアコンテスト2019」を開催した。同コンテストは、保険産業を発展させるための創造的な保険商品をテーマに、日中韓の大学個人またはチームがアイデアを競うイベントで、今年で3回目となる。当日は、予選を勝ち抜いた韓国チーム8チームと日本と中国の各1チームの合計10チームがプレゼンテーションを行った。

「ゲーム市場保険」などの生活に密着した商品アイデアが多かった他、インシュアテックや自律走行車などのデジタル保険時代のキーワードとなる商品アイデアもあった。日本から参加した拓殖大学4先生の金凡洙(キム・ボムス)さん、中山浩太さん、3年生の小野塚圭太さんから成る日本チーム「TIT(Takutsu hoku University InsurTech Research Team)」は、オープンSNSを活用した保険サービス「Fellowship insurance」based on SNS style Insurance Platform Service」について発表、研究背景や促進方法などを全て英語でプレゼンした。

全プレゼン終了後、審査員長の大邱大学のイ・ウォンドン教授をはじめ、韓国保険学会会長(成均館大学教授)のジョン・ホンジュ氏、保険開発院副院長のイ・ジュンソプ氏、ハンファ生命商品開発チーム長のソン・ユンホ氏、KB損害保険長期商品本部長のオ・ヨンテク氏、ジクト共同代表のソ・ハンソク氏らが審査を行った。講評でオ・ヨンテク氏は、「今回のコンテストを通じて、2030年世代は、複雑で難しい保険よりも安くてシンプルで直感的な保険を好むことが分かった。今後、若い世代のニーズは浪人保険、建物、空室保険など



緊張感のある会場



大賞のチーム「DNA」

STEM」を発表した中国漢陽大学保険数理学科のチーム「TMI」が受賞した。

この他、奨励賞は、木浦大学・金融保険学科のチーム「MNU」の「コンピュータ連携型・保険トップ商品」、嘉泉大学と仁荷大学の合同チーム「相互扶助」の「YOLLO浪人保険」が選ばれた。

大賞を受賞したチーム「DNA」の学生は、「多くの人たちが健康に生きていくことに自分たちのアイデアが活用されればうれしい」とコメントした。

日本のチーム「TIT」は、奨励賞の韓国保険新聞社長賞を受賞。受賞に関して金さんは、「奨励賞の受賞は、チーム全員の努力が認められたことなので、とても嬉しい。」

中山 コンテストはチームで参加することになるので、準備期間中に意見の食い違いなどもあると思うが、最後には、3人の意見と気持ちを一つにして、コンテストに参加してほしい。

小野塚 参加するとなると全員が協力する必要があるため、何もしないという人がいないように、資料集めなど、自分ができることを必ず見つけた方がよい。そうした作業を進めているうちにアイデアがひらめくこと

もあると思う。

(注) RIS (Risk and Insurance Seminar, 全国学生保険学会ナール)・・・全国の大学における、リスクマネジメント・保険・金融・ファイナンス関連のゼミナールを中心にインターカレッジでの研究交流を行う組織。各地域(関東・関西・九州)で春と秋に行う地区報告会と年末の全国大会の開催、年1回の機関紙(論文集)の発行が主な活動。

学生アイデアコンテスト2019出場者に聞く
拓殖大学4年 金凡洙さん 中山浩太さん 3年小野塚圭太さん

3人の力で「奨励賞」受賞



(左から)小野塚さん、韓国保険新聞社李社長、金さん、中山さん

——コンテストに参加したきっかけは。
金 所属しているゼミの活動の中で、RIS(注)に参加した時、自分が韓国語を話せるというところで声を掛けてもらった。4年生なので、就職活動のことも考えて、最初は、参加するかどうか悩んだが、学生生活の中で勉

強に打ち込む最後の機会と思い、参加を決意した。
中山 最初は、参加しようか悩んだが、金君とゼミ仲間としてずっと勉強してきたので、最後に一緒に参加してみようと思った。
——準備が大変だったことや苦労したことは。
金 準備期間が短かったことが一番苦労した。また、ゼロベースからのテーマ(アイデア)の選

定も大変だった。研究内容の方向性が決まっただけでも、どうやって研究内容のクオリティを向上させていくかについて3人で長い時間かけて話をした。3人のひらめきをつなぎ合わせて、やっと今の形にすることができた。
——参加した感想は。
中山 準備期間が約2カ月間と短く、3人が揃う日数をあまりつくれなかったため、夜にビデオ通話で打ち合わせもした。一緒に頑張った力を合わせてプレゼンを成功

させることができた。
小野塚 夏休みやテストが重なるなど時間が足りない中で、英語のプレゼンテーションを用意するのに苦労したけれど、みんなにフォローしてもらった。その結果、奨励賞をもらえたので、本当にうれしかった。一方で、準備期間がもう少しあれば、もっと良いものができたと思う部分もあり、少し悔しい気持ちが残っている。
金 準備期間で考えるなら、プレゼンテーション自体は120点だった

と思う。でも、もう少し期間があれば報告内容のクオリティは高められたかもしれない。
——次にコンテストに参加する学生にアドバイスがあれば。
金 韓国で開催するコンテストなので、現地でのやりとりに際して言葉が通じない点で、不便を感じることもあると思う。そういった意味では、研究メンバーに韓国語を勉強してもらった方がよい。そうした作業を進めているうちにアイデアがひらめくこと

ほしい。
中山 コンテストはチームで参加することになるので、準備期間中に意見の食い違いなどもあると思うが、最後には、3人の意見と気持ちを一つにして、コンテストに参加してほしい。
小野塚 参加するとなると全員が協力する必要があるため、何もしないという人がいないように、資料集めなど、自分ができることを必ず見つけた方がよい。そうした作業を進めているうちにアイデアがひらめくこと

もあると思う。
(注) RIS (Risk and Insurance Seminar, 全国学生保険学会ナール)・・・全国の大学における、リスクマネジメント・保険・金融・ファイナンス関連のゼミナールを中心にインターカレッジでの研究交流を行う組織。各地域(関東・関西・九州)で春と秋に行う地区報告会と年末の全国大会の開催、年1回の機関紙(論文集)の発行が主な活動。